



サービス パラメータの設定

**注意**

この章の情報は、スタンドアロン設定だけに適用できます。Cisco Unified Communications Manager Business Edition (CMBE) がインストールされている場合のサービス パラメータの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection のサービス パラメータを使用すると、Cisco Unified Serviceability の各種のサービスを設定できます。パラメータのリストおよび説明は、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの疑問符 (?) ボタンをクリックすると表示できます。パラメータをクリックすると、そのパラメータを一番上に表示した状態でリストを表示できます。

Cisco Unified Serviceability のサービスを非アクティブにした場合、更新されているサービス パラメータ値はすべて Connection に保持されます。サービスを再度開始した場合、サービス パラメータは変更後の値に設定されます。

Cisco Unified Serviceability のサービスの詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。

**注意**

サービス パラメータに特定の変更を加えた場合、システムに障害が発生する恐れがあります。サービス パラメータは、変更しようとする機能について完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (Cisco TAC) が変更内容を指定した場合を除いて変更しないことをお勧めします。

次の各項を参照してください。

- [Cisco Unified Serviceability のサービスのサービス パラメータの設定 \(P.36-2\)](#)
- [サービス パラメータの詳細 \(P.36-3\)](#)

Cisco Unified Serviceability のサービスのサービス パラメータの設定

個々の Cisco Unified Serviceability サービスのサービス パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

Cisco Unified Serviceability のサービスのサービス パラメータを設定する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[サービス パラメータ (Service Parameters)] をクリックします。
- ステップ 2** [サービス パラメータ (Service Parameters)] ページの [サーバ (Server)] リストで、Cisco Unity Connection サーバの名前をクリックします。
- ステップ 3** [サービス (Service)] リストで、更新するパラメータが含まれているサービスをクリックします。



(注) [サービス パラメータ (Service Parameters)] ページには、すべてのサービス (アクティブおよび非アクティブ) が表示されます。

- ステップ 4** 必要なパラメータ値を更新します。サービスのすべてのサービス パラメータをデフォルト値に設定するには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックします。

パラメータのリストおよび説明を表示するには、ページの右側にある [?] ボタンをクリックします。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

サービス パラメータの詳細

表 36-1 に、Cisco Unity Connection のサービス パラメータの詳細を示します。

表 36-1 サービス パラメータの詳細

サービス パラメータ	説明
Cisco AMC サービス	
Primary Collector	<p>クラスタ全体のリアルタイム情報を収集するプライマリ AMC (AlertMgr and Collector) サーバを指定します。この値は、設定済みのいずれかのサーバと一致している必要があります。可能な場合には、通話処理が一切または最小限しか発生しないサーバと一致させる必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
Failover Collector	<p>フェールオーバー AMC (AlertMgr and Collector) サーバを指定します。このパラメータで指定されたサーバは、プライマリ AMC がダウンした場合や到達不能の場合に、リアルタイム データの収集に使用されます。Failover Collector が指定されていない場合、Primary Collector がアクティブでないときはデータが収集されません。</p>
Data Collection Enabled	<p>リアルタイムのクラスタ情報の収集と警告を有効 (True) または無効 (False) のどちらにするかを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
Data Collection Polling Rate	<p>AMC の収集レートを秒単位で指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 30 最小値 : 15 最大値 : 300 単位 : 秒</p>
Server Synchronization Period	<p>バックアップ AMC (AlertMgr and Collector) が起動時に待機する時間の長さを秒単位で指定します。これは、プライマリ AMC が稼働中で収集を実行しているかどうかを特定するための時間です。このパラメータによって、バックアップ AMC が収集タスクを必要以上に早く開始することを防止できます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、バックアップサーバ上の AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 60 最小値 : 15 最大値 : 300 単位 : 秒</p>

表 36-1 サービス パラメータの詳細 (続き)

サービス パラメータ	説明
RMI Registry Port Number	<p>RMI レジストリをアクティブにするためのポート番号を指定します。このポートは、プライマリまたはバックアップの AMC で他の AMC を検索するために使用されるほか、RTMT サブレットでプライマリ/バックアップ AMC の検索に使用されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 1099 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>
RMI Object Port Number	<p>RMI リモート オブジェクトに使用されるポート番号を指定します。このポートは、AMC で他の AMC とのデータ交換に使用されるほか、RTMT サブレットでも使用されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 1090 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>
AlertMgr Enabled	<p>(AMC のトラブルシューティングにのみ使用) 警告 (電子メールまたは Web ページ) 機能を有効または無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
Logger Enabled	<p>(AMC のトラブルシューティングにのみ使用) ログ機能 (レポート生成のための CSV ファイル) を有効または無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、AMC サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>

表 36-1 サービスパラメータの詳細 (続き)

サービスパラメータ	説明
Cisco Database Layer Monitor サービス	
Maintenance Time	<p>CDR データベースのメンテナンスを開始する時刻を指定します。このパラメータは、Maintenance Window パラメータと組み合わせて使用します。たとえば、このパラメータに 22 が指定されている場合は、CDR のメンテナンスが午後 10 時 (22 時) に開始されることを意味します。Maintenance Window パラメータが 2 に設定されている場合は、CDR のメンテナンスが午後 10 時から午前 0 時まで、1 時間ごとに実行されることを意味します。両方のパラメータが 24 に設定されている場合、CDR のメンテナンスは、終日にわたって 1 時間ごとに実行されます。CDR メンテナンスの実行時には、Max CDR Records パラメータで指定された記録最大数を超えないように、CDR およびそれに関連する CMR が最も古いものから削除されていきます。また、メンテナンス中に CDR ファイルの数が 200 を超えた場合は警告が発行され、サーバ間のレプリケーションリンクに障害がないかどうか確認されて、障害のあるレプリケーションリンクの再初期化が試行されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 24 最小値 : 1 最大値 : 24 単位 : 時間</p>
Maintenance Window	<p>CDR のメンテナンスが 1 時間間隔で実行される期間を指定します。たとえば、このパラメータが 12 に設定されている場合は、CDR のメンテナンスが 12 時間にわたって 1 時間ごとに実行されます。開始時刻は、Maintenance Time パラメータで指定されます。たとえば、Maintenance Time パラメータが 7 に設定され、このパラメータが 12 に設定されている場合、CDR のメンテナンスは午前 7 時に開始され、1 時間ごとに午後 7 時まで実行されます。両方のパラメータが 24 に設定されている場合、CDR のメンテナンスは終日にわたって 1 時間ごとに実行されます。CDR メンテナンスの実行時には、Max CDR Records パラメータで指定された記録最大数を超えないように、CDR およびそれに関連する CMR が最も古いものから削除されていきます。また、メンテナンス中に CDR ファイルの数が 200 を超えた場合は警告が発行され、サーバ間のレプリケーションリンクに障害がないかどうか確認されて、障害のあるレプリケーションリンクの再初期化が試行されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 2 最小値 : 1 最大値 : 24 単位 : 時間</p>

表 36-1 サービス パラメータの詳細 (続き)

サービス パラメータ	説明
MaintenanceTaskTrace	<p>Maintenance Task トレースを設定します。Maintenance Task からパフォーマンス カウンタ トレースを取得するには、このパラメータをオンにする必要があります。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : Off</p>
Cisco DirSync	
Maximum Number of Agreements	<p>プラグイン GUI から設定できる合意の最大数を指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) プラグイン GUI を再起動してください。</p> <p>デフォルト設定 : 3 最小値 : 1 最大値 : 5</p>
Maximum Number of Hosts	<p>フェールオーバーのために設定できるホストの最大数を指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) プラグイン GUI を再起動してください。</p> <p>デフォルト設定 : 3 最小値 : 1 最大値 : 3</p>
Retry Delay on Host Failure (secs)	<p>LDAP 接続障害が発生した場合にリトライ ロジックで使用される遅延を指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更は、自動的に有効になります。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 5 最大値 : 60</p>

表 36-1 サービスパラメータの詳細 (続き)

サービスパラメータ	説明
Retry Delay on HostList Failure (mins)	<p>LDAP 接続障害が発生した場合にリトライ ロジックで使用される遅延を指定します。Retry Delay on Host Failure とは異なり、この遅延は、ホスト リスト全体でリトライが再開されるときに適用されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更は、自動的に有効になります。</p> <p>デフォルト設定 : 10 最小値 : 10 最大値 : 120</p>
LDAP Connection Timeout (secs)	<p>LDAP 接続の確立に使用されるタイムアウト期間を秒単位で指定します。指定したタイムアウト期間中に接続を確立できない場合、LDAP サービス プロバイダーによって接続試行が中止されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更は、自動的に有効になります。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 1 最大値 : 60</p>
Delayed Sync Start Time (mins)	<p>Cisco DirSync アプリケーションの起動時、同期化プロセスの開始前に適用される遅延を指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 5 最小値 : 5 最大値 : 60</p>
Cisco RIS Data Collector のパラメータ	
RIS Cluster TCP Port	<p>Cisco RIS Data Collector サービスが互いに通信するために使用される静的 TCP ポートを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、Cisco RIS Data Collector サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 2555 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>

表 36-1 サービス パラメータの詳細 (続き)

サービス パラメータ	説明
RIS Client TCP Port	<p>Cisco RIS Data Collector サービスと通信するために RIS クライアントが使用する静的 TCP ポートを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) パラメータに対する変更を有効にするには、Cisco Database Layer Monitor サービスと Cisco RIS Data Collector サービスを再起動します。</p> <p>デフォルト設定 : 2556 最小値 : 1024 最大値 : 65535</p>
RIS Client Timeout	<p>RIS クライアントが Cisco RIS Data Collector サービスからの応答を待つ時間の長さを秒単位で指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 15 最小値 : 10 最大値 : 1000 単位 : 秒</p>
RIS Cleanup Time of the Day	<p>RIS データベースをクリーンアップして、未使用または古いデバイス情報を削除する時刻を指定します。この処理中に、すべてのデバイスの NumofRegistrationAttempts パフォーマンス カウンタが 0 にリセットされます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 22:00 最大長 : 5 許容値 : 時刻を HH:MM 形式で指定します (例 : 06:11)。 単位 : 時 : 分</p>
RIS Unused Cisco CallManager Device Store Period	<p>未登録デバイスまたは拒否されたデバイスに関する Cisco CallManager サービスからの情報について、RIS データベース情報の保存期間を指定します。このパラメータで指定された期間が経過すると、期限切れのエントリは、次の RIS データベース クリーンアップ実行時 (RIS Cleanup Time of the Day パラメータで指定) に削除されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 3 最小値 : 1 最大値 : 30 単位 : 日数</p>

表 36-1 サービスパラメータの詳細 (続き)

サービスパラメータ	説明
RIS Unused CTI Records Storage Period	<p>CTI Manager からの、閉じられたプロバイダー、デバイス、または回線に関する情報について、RIS データベース情報の保存期間を指定します。このパラメータで指定された期間が経過すると、期限切れのエントリは、次の RIS データベースクリーンアップ実行時 (RIS Cleanup Time of the Day パラメータで指定) に CTI Manager によって削除されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 1 最小値 : 0 最大値 : 5 単位 : 日数</p>
RIS Maximum Number of Unused CTI Records	<p>閉じられた CTI プロバイダー、デバイス、および回線に関するレコードについて、RIS データベースに保存される最大数を指定します。このパラメータで指定された上限値に達した場合、Cisco CTI Manager は、未使用の CTI プロバイダー、デバイス、および回線に関する新しいレコードを RIS データベースに保存しません。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 3000 最小値 : 0 最大値 : 5000 単位 : レコード数</p>
TLC Throttling Enabled	<p>Trace and Log Central スロットリング (抑制) の動作を有効または無効にします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
TLC Throttling IOWait Goal	<p>TLC がどのシステム IOWait パーセンテージに向けて自身をスロットリングするかを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 55 最小値 : 0 最大値 : 100</p>
TLC Throttling CPU Goal	<p>TLC がどのシステム CPU 使用率に向けて自身をスロットリングするかを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 80 最小値 : 0 最大値 : 100</p>

表 36-1 サービス パラメータの詳細 (続き)

サービス パラメータ	説明
TLC Throttling Polling Delay	<p>トレース収集スロットリングのための IOWait および CPU 使用率のポーリング間の最小遅延をミリ秒単位で指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 250 最小値 : 200 最大値 : 2000</p>
TLC Throttling SFTP Maximum Delay	<p>タイムアウトを防ぐために SFTP 転送が一時停止される最大時間を指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 5000 最小値 : 1000 最大値 : 10000</p>
Maximum Number of Processes and Threads	<p>SystemAccess で完全な Processes 統計情報カウンタと Threads 統計情報カウンタが提供されるプロセスとスレッドの最大数を指定します。プロセスとスレッドの合計数がこの最大数を超えた場合、SystemAccess は、Processes 統計情報カウンタのみをこの最大数まで提供します。もう一方の Threads 統計情報カウンタは一切提供されません。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 1200 最小値 : 1000 最大値 : 2000</p>
Enable Logging	<p>トラブルシューティング perfmon データの収集とロギングを有効 (True) または無効 (False) のどちらにするかを指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : True</p>
Polling Rate	<p>トラブルシューティング perfmon データのポーリング レートを秒単位で指定します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 15 最小値 : 5 最大値 : 300 単位 : 秒</p>

表 36-1 サービスパラメータの詳細 (続き)

サービスパラメータ	説明
Maximum No. of Files	<p>ディスクに保存されるトラブルシューティング perfmon ログファイルの最大数を指定します。Maximum No. of Files が大きな数値に設定されている場合は、Maximum File Size を小さくすることをお勧めします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p> (注) この値を小さくして、Troubleshooting Perfmon Data Logging が有効で RISDC がアクティブになっている場合、超過した分のログファイルが、タイムスタンプの最も古いものから削除されていきます。Maximum No. of Files を変更する場合は、これらのファイルを事前に保存してください。</p> <p>デフォルト設定 : 50 最小値 : 1 最大値 : 100</p>
Maximum File Size (MB)	<p>トラブルシューティング perfmon ログファイルの最大ファイルサイズを MB 単位で指定します。この値に達すると、次のファイルが使用されます。Maximum File Size が大きな数値に設定されている場合は、Maximum No. of Files を小さくすることをお勧めします。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 2 最小値 : 1 最大値 : 500</p>
Cisco Serviceability Reporter	
RTMT Reporter Designated Node	<p>RTMTReporter が実行される所定のノードを指定します。RTMTReporter サービスは CPU 中心であることに注意してください。このフィールドには、Reporter が最初にアクティブになったローカルノードの IP が自動的に入力されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
RTMT Report Generation Time	<p>Real-Time Monitoring Tool (RTMT) レポートが生成される時刻を、午前 0 時 (00:00) からの経過分数で指定します。通話処理に対する影響を抑えるには、営業時間外に、非リアルタイムのレポートを実行します。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 30 最小値 : 0 最大値 : 1439</p>

表 36-1 サービス パラメータの詳細 (続き)

サービス パラメータ	説明
RTMT Report Deletion Age	<p>レポートが削除されるまでの期間を日数で指定します。たとえば、このパラメータが 7 に設定されている場合は、7 日前に生成されたレポートが 8 日目に削除されます。この値を 0 にすると、レポート生成が無効になり、既存のレポートがすべて削除されます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p> <p>デフォルト設定 : 7 最小値 : 0 最大値 : 30</p>